

新着図書案内

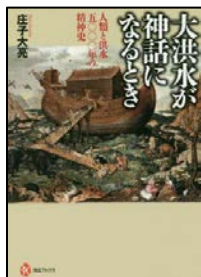
2018年3・4月発行



『密造酒の歴史』

酒飲みの欲望と創意工夫により造り続けられてきた密造酒。製造者、密輸業者、収税吏らの長きにわたる攻防から、新たな価値が見出された現代までを網羅し、自家製酒の魅力を探る。

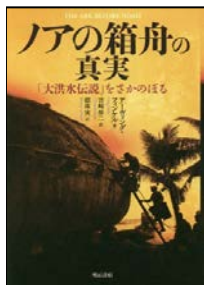
ケビン R.コザー // 著 原書房 2018.1



『大洪水が神話になるとき』

旧約聖書のノアの洪水から日本の神話まで、世界には多くの洪水神話が伝えられている。神話学、歴史学、考古学、地質学などを元に、古代にその地で何が起きたのかを検証し、これらの神話を生み出した人類の精神史に迫る。

庄子 大亮 // 著 河出書房新社 2017.12



『ノアの箱舟の真実』

<箱舟の書板>と呼ばれる楔形文字の粘土書板に書かれていた「ノアの箱舟」に関する驚きの事実とは。メソポタミアの洪水伝説が旧約聖書に組み込まれていく過程を解明しながら、“常識”を覆す真実を明らかにする。

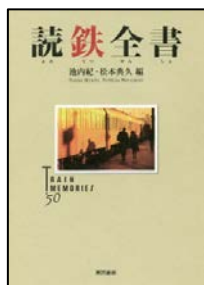
アーヴィング フィンケル // 著 明石書店 2018.1



『ことばはフラフラ変わる』

外国語大学での講義を再現。ことばはなぜ変化するのか、どのように変化するのか。ヨーロッパの言語に偏らない複数言語学という視点から、ことばの本質に迫る。

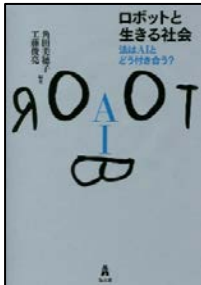
黒田 龍之助 // 著 白水社 2018.1



『読鉄全書』

乗るたのしみ、鉄道でみつけたもの、旅と人生…。汽車への思いで満ちた作品集。室生犀星「急行列車」、若山牧水「みなかみ紀行」などの名作から、南伸坊、片岡義男らの書き下ろしまで、50編の鉄道の旅を収録。

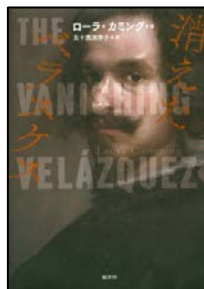
池内 紀 // ほか編 東京書籍 2018.2



『ロボットと生きる社会』

ロボット工学者と民法学者の2人が、AI研究から情報法、宇宙法、医事法まで、様々な分野の研究者・専門家を迎え、知的刺激に溢れたリレー鼎談で、ロボット・AI時代に向けた法制度をデッサンする。

角田 美穂子 // ほか編著 弘文堂 2018.1



『消えたベラスケス』

19世紀、英国の書店主が出会ったのは、スペインの宮廷画家ベラスケスによる幻の一枚の絵。たった数ポンドのキャンバスが、男の人生をくるわせてゆき…。絵とともに流浪した、ひとりの男のノンフィクション・ストーリー。

ローラ カミング // 著 柏書房 2018.1



『英国王立園芸協会とたのしむ植物のふしぎ』

芝刈りを1年間さぼったらどうなるの？夜になると花が閉じるのはどうして？数千人の園芸家の悩みに答えてきた英国のカリスマ庭師が、植物と植物を取り巻く環境にまつわる疑問にわかりやすく答える。美しい図版が満載。

ガイ パーター // 著 河出書房新社 2018.1

*掲載しているものは新着本の一部です。新着本は随時ホームページで公開していますので、そちらもご覧下さい。
 *紹介文はTRCマークより引用。*書影は日外アソシエーツブックデータASPサービスを利用。または出版社より許諾を得ています。



『黄金の1年』

それぞれの人生に、それぞれのターニングポイントがある。一流Jリーガー19人のキャリアにおいて大きな意味を持つシーズンを取り上げ、彼らの生き方を描く。『サッカーダイジェスト』掲載に書き下ろしを加え書籍化。

飯尾 篤史 // 著 ソル・メディア 2018.1

『女子と乳がん』

乳がん治療は、ハゲる、太る、性欲ゼロになる。そして彼氏や夫は重荷に耐えかね浮気をし、金は湯水のように出て行く。若年性乳がん罹患者と同一病女子が、治療中と治療後のお金、恋愛・結婚・妊娠、仕事を赤裸々に語る。

松 さや香 // 著 扶桑社 2017.11

『数をかぞえるクマ サーフィンするヤギ』

おしゃべりするプレーリードッグ、仲間を助けるネズミ、葬式をするカササギ、人間と駆け引きするイルカ…。動物たちの感性や理性、芸術性のすばらしさを伝える選りすぐりの実話を、百点以上の表情豊かな写真とともに紹介する。

ベリンダ レシオ // 著 NHK出版 2017.12

『B.C.1177』

ヒッタイト、ミタンニ、エジプト…。一時代を築いた高度な文明世界は、なぜ跡形もなく消滅したのか? “海の民”によって滅ぼされたというのは事実なのか? 最新の考古学史料をもとに、古代世界像を刷新する。

エリック H.クライン // 著 筑摩書房 2018.1

『装丁、あれこれ』

「本」と「装丁」をめぐる“本についての本”。装丁家の著者が、「電子書籍の「表と裏」」「リアルな本の存在意義」「本とは何か」などについて綴る。『出版ニュース』連載コラム「装丁」2012～17年掲載分を基に書籍化。

桂川 潤 // 著 彩流社 2018.1

『絶滅危惧種ビジネス』

絶滅危惧種アロワナは、貴重な伝説の魚か、大量生産された商品か、それとも危険な外来種なのか? 業界が口を閉ざす世界屈指の高級観賞魚の謎に著者が命がけで迫るルポルタージュ。

エミリー ボイト // 著 原書房 2018.1

『クリスチャニア自由の国に生きる デンマークの奇跡』

世界一幸福な国として注目を集めるデンマーク。その首都のど真ん中には、住民たちが創り上げた奇跡の国「クリスチャニア」がある。そこでの自然で豊かな暮らしを写真とともに紹介し、幸せな未来をつくるヒントを提示する。

清水 香那 // 文 WAVE出版 2017.12

『上方落語史観』

幕末から明治初期にかけて創作された古典落語は、当時の歴史風土や人々の生活習慣が色濃く反映されている。上方落語のネタからリアルな大阪の歴史を紐解く。著者・高島幸次×桂春之輔×名越康文の鼎談も収録。

高島 幸次 // 著 140B 2018.1

『あだ名で読む中世史』

赤髭王、青齒王、獅子心王…。なぜ多くの王侯が「あだ名」で呼ばれ、しかもそれが長く伝わることになったのか。ヨーロッパ中世の「あだ名文化」の実態とその背景を解き明かし、命名や家門にまつわる疑問の数々に光をあてる。

岡地 稔 // 著 八坂書房 2018.1

『オーロラ・ウォッチングガイド』

オーロラはどうして光るの? オーロラの子報ができるって本当? オーロラに関する知識、オーロラを見に行くための準備について解説し、撮影方法やおすすめのオーロラ鑑賞地を紹介する。

赤祖父 俊一 // 監修 誠文堂新光社 2018.1

*掲載しているものは新着本の一部です。新着本は随時ホームページで公開していますので、そちらもご覧下さい。
*紹介文はTRCマークより引用。*書影は日外アソシエーツブックデータASPサービスを利用。

